

横浜市立寛政中学校

2019年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
「自ら学び社会とつながりともに未来を創る人」 ○基礎基本を身に付け、生涯にわたり自ら学び続ける生徒を育てます。(知) ○自ら律し、自他を大切にできる生徒を育てます。(徳) ○基本的な生活習慣を身に付け、健康に生きようとする生徒を育てます。(体) ○地域を愛し、つながりや関わりを大切にできる生徒を育てます。(公) ○多様性を認め、共に生きようとする生徒を育てます。(開)	寛政中学校ブロックで育成を目指す資質・能力 「基礎学力」「規範意識」「協働性」 本校で育成を目指す重点的な資質・能力「知識及び技能の習得」「思考力・判断力・表現力」の育成 「学びに向かう力、人間性」の育成

(2) 中期取組目標

中期取組目標
○「すべての教育活動を生徒の成長と将来の幸福のために」を基本理念とした学校づくりを目指します。 ・生徒一人ひとりの個性や資質・能力を理解し、その伸長を図ることに努め、誰もが安全に安心して心豊かに生活し、寛政中学校の生徒として誇りを持てるような学校づくりを進めます。 ・生徒が学び育つための教育活動の展開や教育環境づくりに努め、生徒や保護者、地域社会の要請や信頼に誠実に応える姿勢を大切にし、加えて家庭や地域とのよりよい連携や協働を生かして学校づくりを進めます。 ・教職員一人ひとりが自らの特性や能力を生かすとともに、相互の連携や協力により一人ひとりの教育力を発揮する方向性を揃え、有機的に機能する組織を大切に学校づくりを進めます。

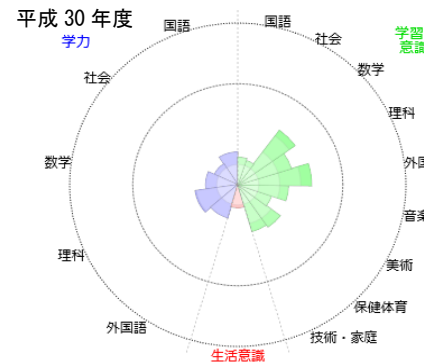
(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きて働く知	①全職員がお互いの授業を参観し、それぞれの集団の特性に応じた授業力向上に向けて研修に取り組み、授業規律や基礎学力の定着を図る。 ②校内授業研や小中一貫教育推進ブロック授業研において積極的に授業公開し、子どもが主体的に取り組む授業を目指す。
担当 学習指導部	

2 横浜市学力状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

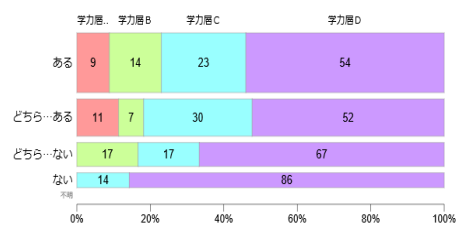
学力面では学力層 D の生徒が 60% と、全体的に課題が見られる。小学校時の既習事項の習得ができないまま進学して来る生徒も多く、小中の一層の連携が必要である。学習困難な生徒が多数を占める中、授業規律を確立することが喫緊の課題である。基礎・基本の定着を図りながら、思考力・判断力・表現力を育成していくことが必要である。すべての教科で学習意識にも課題があるが、学力と学習意識に乖離が見られる。教科に対しての意欲や必要性は感じてはいるものの、基礎学力が定着していないために習得できていない状況が見られる。学習支援を重ねることで、意欲を引き出す手立てを構築する必要がある。



(2) 生活意識と学力層とのクロス集計による分析

市の平均と同等程度である「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことはありますか。」という項目について、国語科の学力層とクロス集計してみると、学力層 A の生徒は「ある」「どちらか」とあるのみを解答としている。他教科のクロス集計でも、同様の傾向が見られる。授業が分かることによって、生活の中での達成感や自己有用感も高まっていく。また、授業の中で最後まで諦めず、粘り強く取り組む活動を展開していく必要がある。

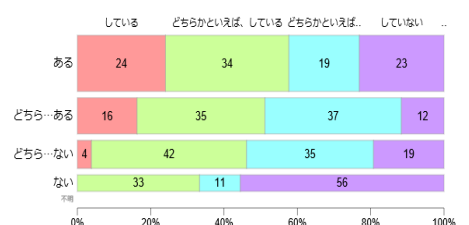
達成感と国語科学力層とのクロス



(3) 生活意識調査による分析

市の平均以上にある「まちの行事に参加していますか」という項目と「一生懸命取り組んでいることがありますか」という項目をクロス集計してみると、行事に参加している生徒は物事に熱心に取り組んだ経験を持っているという傾向が見られる。地域の行事に参加することを推奨し、たくさんの大人と触れ合う機会を通して社会性を身に付けさせてきた成果が現れている。今後も成功体験を味わわせることによって、自己肯定感を高めるよう支援していく必要がある。

地域行事への参加と目標に取り組む経験とのクロス



3 2019年度 教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的な取組	
		前期	後期
国語	◆さまざまな意見の交流を通して、自分の考えを深める力	意見の交流から、さまざまな見方や考え方があることに気づき、自分の考えを客観的にとらえる。	深まった物の見方や考え方を整理する時間を作り、自分との対話をさせる。
社会	◆主体的に課題を解決する態度基礎的知識の定着	毎回の授業ごとにふりかえりカードを書くことを通して、生徒の疑問や理解度の実態を把握し、それらに基づいた資料・教材を提供する。	
数学	◆自己有用感	他者と関わって、自らの課題を発見し解決していく中で、達成感を味わえる学習活動を展開する。	
理科	◆共通点・相違点を見つけ、関係性に気づく力	実験の結果を自らの言葉でまとめ、他者と共有し、関連性や規則性を見いだすことができるように指導の充実を図るようにする。	
音楽	◆豊かな関わり合いを大切にして、共に生きる力	授業での意見交流を通して、他の意見を尊重し合い、多様な音楽表現の面白さに気付く態度を育むことのできる学習を展開する。	
美術	◆豊かに発想を広げ、他者理解や自己表現につなげようとする態度	他者のよさに気づき、見方や感じ方を広げ、自己表現に生かすことで、自分の作品制作に自信を持って取り組める学習を展開する。	
保体	◆できた・わかった実感	生徒が学習の見通しを持ちやすくするため、教科書や ICT 機器を活用し、視覚的支援を多く取り入れ、運動の楽しさ、達成感を味わえる授業を展開する。	
技・家	◆課題に対応する力	生活や社会の中から問題を見出だして課題を設定し、自分なりの最適な解決策を追究する活動を設定する。	
外国語	◆自分の思いや考えを伝え合おうとする姿勢	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、生徒が主体的に表現し伝え合う学習過程の改善・充実を図る。	
道徳	◆つながりやかかわりを大切にする態度	道徳的価値を理解し、それを自分との関わりでとらえて自己を見つめ、主体的に考え議論する道徳の授業を展開する。	
特活	◆他者を理解する態度・自己を理解する姿勢	他者と協力しながら人間関係や日常生活の改善に向けて、自分の役割に主体的に取り組める活動を設定する。	
総合	◆よりよい社会を創る態度	自ら設定した課題を粘り強く解決する能力を育てるとともに、学び方やものの考え方を身につけ、主体的、創造的、協働的に取り組むことができる学習を展開する。	
個別級	◆課題に対応する力 学習の基礎・基本を身に付ける力	個別の指導計画に基づき、個々の実態に応じて授業形態の構成を工夫し、指導の充実を図るようにする。	